

「明るい町で防犯対策」

小田原市立国府津中学校

二年 古谷 帆風

冬の下校時は辺りが暗くなっています。学校付近には民家が多く、車もたくさん走っていて何も感じません。しかし、私の住んでいる地域は学校から少し離れた所にあり、田んぼ道のため街灯や民家がほとんどない場所を通ります。冬は部活が終わり、6時を過ぎると真っ暗になってしまいます。明るい時には感じない嫌な感じを気にしながら、怖いので周りを見ないように早足で帰宅します。街灯が少なくて暗いだけでこんなに不安になるためこういうことも犯罪や防犯に関係があるのではないかと考えました。

街灯が多くて明るい町と暗い町、明るい方が犯罪は少なくなると思います。暗くて隠れやすかったり、人目に付きにくい場所では犯

罪が起こりやすいと思います。街を見直し、暗い場所を明るくすることが防犯につながるのではないのでしょうか。

私が小学生の時にも同じような経験をしました。下校時一人になってしまった時にも不安を感じました。しかし犬の散歩をしている人や畑仕事をしている人を見つけると感じていた緊張がほぐれます。小さい頃は「お帰り」や「こんにちは」と声をかけてくれる人たちもいたため地域の人との交流やつながりになっていました。見守りの目がたくさんあると人の動きや活気があり、犯罪者が寄り付かなくなり防犯につながると考えます。私はペットを飼っていませんが、ペットを飼った時は、そういう時間帯に散歩をしたり、地域の活性化、防犯の力になればいいなと思います。